

## 米国財務会計基準審議会 Russell G. Golden 議長による 経団連及び財務管理者協会日本支部との会合（2013年10月16日、東京）での スピーチ

本日ここで、日本の最も重要な事業者の団体の1つである経団連と FEI の北米以外で設置された最初の支部である FEI 日本支部の会員の皆様とお話することができ、光栄に思います。

本日の東京でのこの会合は、日本の経済及び資本市場が世界貿易及び世界経済にとって非常に重要であることを強調するものです。

また、私にとって幸いなことに、この会合は、日本、米国及び世界中の他の国々の会計基準設定主体が国際的な財務報告の比較可能性を高めるために作業する際の今後の道筋に関して、私が皆様と議論をするきっかけとなります。

話を進める前に、本日の私の発言は、私個人の見解を反映するものであり、米国財務会計基準審議会（FASB）の公式見解ではないことを明確にしておきます。

最初に、経団連と企業会計審議会のリーダーシップとビジョンに対して祝辞を述べたいと思います。両者は、日本（及び、私の意見では、他の主要な資本市場）が各国のビジネス慣行から生じるいくつかの重要な相違を維持することの重要性を認識しつつ、グローバルな財務会計の基準の共通のセットに向けた作業を継続できるプロセスの概要を示したのです。

FASB のボード・メンバーは、経団連が6月10日に公表した文書「今後のわが国の企業会計制度に関する基本的考え方」を注意深く読みました。また、企業会計審議会が6月19日に公表した「国際財務報告基準（IFRS）への対応のあり方に関する当面の方針」についても綿密に分析しました。

両文書とも、財務会計の基準を収斂させるためのグローバルな取組みの状況について非常に思慮深い分析を示しています。経団連と企業会計審議会のペーパーは、FASB と日本にいらっしゃる皆様とが共有している多くの領域の概要を示しています。両文書とも、この重要な論点に関する私たちの考えをまとめる上で役に立っています。私たちは、両文書の作成に当たって行われた配慮を高く評価しており、グローバルな議論に重要な貢献を果たしたことを称賛します。

私の理解では、経団連と企業会計審議会の文書は両方とも、次のようないくつかの非常に重要な原則を大所高所から示しています。

- グローバルな会計基準の共通のセットに向けて作業を行うことが、日本（私の考え

では米国も) を含めた世界の主要な資本市場にとって最善の利益である。

- 国際会計基準審議会 (IASB) の会計基準設定活動に対して十分に参加することは、私たちがこのプロセスを促進できる重要な方法の1つである。
- 私たちがより収斂したグローバルな会計基準の開発に向けて作業するに当たり、(日本基準及び米国基準を含む) 各国の会計基準の高い品質を維持し、改善することも極めて重要である。
- 各国のビジネス慣行の完全性を保全するには、各国の会計基準についていくつかの相違点を維持することが必要となる場合がある可能性が高い。

経団連と企業会計審議会によるこれらの見解は、私たちが FASB で行ってきた議論と整合するものです。しかし、私は、さらに踏み込んで、日本と米国が一緒に世界中にこれらの原則を推進する指導的役割を果たすことが重要であると考えていることをお伝えしたいと思います。会計基準設定主体の間でより強力な関係を構築することによって、このビジョンを現実にする可以考虑しています。

これから、日本の企業会計基準委員会 (ASBJ) や世界中の他の会計基準設定主体とのより強力な関係を構築しながら、共通のグローバルな会計基準を開発するという目標に向けてどのように作業を継続することができるかについての私の考えをお話させていただきます。

しかし、その前に、FASB の概要とともに、より収斂した基準に向けて FASB がこれまでに果たしてきた役割について、簡単にお話ししたいと思います。

米国では、ご承知のとおり、米国証券取引委員会 (SEC) が証券市場を規制しています。1973 年以来、SEC は FASB を米国の公開会社のための会計基準を設定する独立の組織として認識しています。FASB は、多くの論点に関して、SEC (特に、その主任会計官室) と緊密に協力しています。しかし、FASB は、SEC の一部でも米国政府の一部でもありません。

FASB が会計基準に関する決定に至るのは、広範囲の投資家、融資者及び他の財務諸表利用者、並びに、財務諸表作成者や監査人からのインプットを含めた厳格なデュー・プロセスを経た後です。FASB は、財務会計財団 (FAF) の独立した評議員会による監督を受けていますが、この評議員会が焦点を当てるのは、FASB が至った技術的な解決策ではなく、FASB が従っているプロセスです。

SEC は、もちろん、公開企業がどのように報告すべきなのかに関して最終的に決定することができますが、FASB の 40 年の歴史の中で、FASB が厳格なデュー・プロセスを経た後に至った決定から SEC が離脱したことは稀にしかありません。FASB の財政基盤は、

米国の資本市場に参加する公開企業に対して課され、連邦法で定められているとおり各企業の時価総額に基づく手数料を通じて独立に行われています。おり、この手数料は、FASB が独立しているというこの構造は、投資家及び融資者が完全で正確な偏りのない情報を有している場合に資本市場が繁栄するという米国の信念を反映しており、このような情報は、十分な情報に基づきつつも、政治的な影響を受けないプロセスから生じる可能性が最も高いと考えています。

米国基準を改善するための FASB の取組みには、共通の高品質でグローバルな会計基準（すなわち、資本提供者がグローバルな金融市場で彼らの資源をどのように投資するかを決定するために有用と考える会計基準）の開発を支援することが含まれます。

2002 年にノーワーク合意が締結されて以降、FASB と IASB は米国基準と IFRS をより緊密に収斂させるための一連の二者間の取決めにに基づき、一緒に作業してきました。

FASB は、この 11 年間にわたるプロセスは重要な成果だと考えています。より比較可能性があり、収斂したグローバルな会計基準の開発と維持は、依然として極めて重要な目標です。しかし、二者間での収斂の時代はまもなく終了し、この目的を達成するために使用する方法は変わります。

FASB は、極めて重要な決定に直面することとなる、新しい環境に突入しようとしています。日本と同様に、米国では、米国の資本市場に投資する者からの差し迫った懸念に対処しつつ、収斂という目標引き続き追求すべきか、また、追求すべきとする場合にそれをどのように行うのかを決定しなければなりません。

本年の残りの期間と来年の FASB の最優先事項は、主要なコンバージェンス・プロジェクトを完了させることです。FASB と IASB は、収益認識に関する最終基準を 2014 年の早い時期に公表したいと考えています。また、金融商品に関する 2 つのプロジェクト（分類及び測定、減損）の最終基準を 2014 年に公表する予定です。リースに関する最終基準は 2014 年後半には完了するはずであり、その後、保険に関する決定を完了する予定です。

このプロセスが進展している間に、SEC は別の道を進んでおり、IFRS が米国企業に対して果たすべき適切な役割に関する公共政策上の決定について較量しています。

ここで強調させていただきたいのは、SEC による意思決定は、会計基準自体に関する部分のみを基礎とするものではなく、会計基準の開発に使用されるインフラ、会計基準の適用、監査、及び執行の方法、そして最終的には、プロセス全体がもたらす情報が比較可能で有用な情報をグローバルな投資家に提供することになるのかどうか決定の基礎となります。

別の言い方をすると、会計基準の適用、監査、及び執行が世界中で整合していない場合には、共通の会計基準があっても必ずしも比較可能な情報にはつながらないということで。ここ数年、SECのスタッフは、SECの委員が十分な情報に基づいた政策決定を行うことを支援するために、これらのすべての側面に関する情報を収集しています。

15か月前の2012年7月に、SECのスタッフは、自らの発見事項に関する包括的な報告書を公表しました。しかし、その報告書には、米国がどのように進むべきかに関する提案は含まれていませんでした。

この報告書は、127ページの中で、会計基準がより網羅的になってきており、全般的に高品質と考えられていることを含め、IFRSについて多くの肯定的な側面を述べておきます。しかし、報告書では、いくつかの継続的な懸念も識別されています。すなわち、移行に関連するコスト、適用が整合的でないこと、IASBの恒久的な財政基盤に関する不確実性、米国の産業のための具体的なIFRSガイダンスの網羅性などに関する点です。

FASBは、SECが米国企業によるIFRSの使用に関する意思決定を最終的にいつ行うのか、またどのような決定を行うのかについて知りません。

その間、FASBは、FASB、IASB、ASBJ、及び他の主要な資本市場の会計基準設定主体が、共存し、協力する、長期的でグローバルな会計基準設定環境についてのビジョンを議論してきました。目標は、これらの会計基準設定主体が、会計基準を設定する特定の資本市場の具体的なニーズに対処しつつ、収斂した会計基準を公表することです。このビジョンは、経団連と企業会計審議会の両者が示したものと非常によく似ています。

ここで、FASBがASBJと極めて緊密で生産的な関係を築いてきたことを指摘したいと思います。長年にわたり、FASBとASBJは定期的に会合し、それぞれの法域で扱っている財務報告上の論点について議論してきました。

私たちは、技術的な視点だけではなく、それぞれの国における作成者、監査人、投資家などの見解を共有しています。FASBとASBJは、両者とも会計基準設定主体国際フォーラム（IFASS）と会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）に積極的に参加しています。

ASBJと同様に、FASBの最優先事項は、自らの資本市場における投資家その他の財務情報の利用者のために財務報告を改善することです。FASBによる作業は、自国の資本市場に役立つほか、他の人々の便益ともなります。これは、もちろん、ASBJについても言えることです。

この作業から便益を受ける人々の中には、自らの財務報告上の法域において米国基準を使用しているか又は参照している他の主要な資本市場の会計基準設定主体や規制当

局、また、当該法域において財務報告書を公表している企業の利害関係者がいます。米国基準を改善する作業をする一方、FASBは、国際的な財務報告の品質、比較可能性、整合性の促進と向上にも取り組んでいます。これは、ASBJの作業が、日本基準だけでなく米国基準やIFRSにも役立っているのと同様です。

しかし、財務報告におけるグローバルな差異の削減は、単に財務会計の基準の差異の削減だけによって決まるものではありません。他の人々が繰り返し指摘しているように（また、私が先ほど述べたように）、世界中の法域には、財務報告の監査及び執行における重大な相違が引き続き存在しています。したがって、財務報告の収斂をより広範かつ完全にすることは、財務会計の基準のみを通じて達成できることではありません。

FASBは、米国の資本市場のために財務報告を改善するという使命を成功裏に果たすと同時に、国際的に財務報告の改善と収斂を図ることができると私は考えています。

具体的には、次のような方法で進むべきだと考えています。

## 1. 米国基準の開発を通じて

FASBの主たる目的は、米国基準を使用する企業が、財務諸表の利用者にとって目的適合性の高い情報を報告することを促進することであるため、国内外で米国基準による報告書を作成する企業の投資家その他の利用者のニーズを満たすために必要である場合には、FASBは、引き続き、米国基準の改善を行うべきです。この点は、日本において経団連と企業会計審議会の両者が採っている立場と同様です。

FASBは、出発点として、米国基準の改善を図ろうとする際にはIFRSを入念に評価し、考慮し、投資家その他の資本市場への参加者の最善の利益となる場合には、グローバルな整合性の促進を図るべきです。FASBが米国基準に対して行う改善は、国際的な会計基準の形成及び将来の方向性に影響を及ぼす可能性があります。

## 2. IFRSの開発への積極的な参加によって

経団連と企業会計審議会が採っている立場と同様に、FASBは、最近、設置されたASAFその他の手段を通じて、IASBのプロジェクトに積極的にインプットすることによってIFRSの開発を促すべきです。

FASBによるデュー・プロセス、利害関係者とのアウトリーチ、分析、及び審議を通じ、FASBが開発した見解を共有することにより、IFRSの開発に貢献すべきです。同様に、米国基準を改善するためのFASBの取り組みは、IASB、IFASS及び世界中の他の会計基準設定主体との交流から得られる追加的な国際的インプットから便益を受けることとなります。どのような場合であっても、FASBの目的は、米国基準とIFRSの改善及び収斂を促進することです。

### 3. ASBJ や他の会計基準設定主体との関係及びコミュニケーションの強化によって

最後に、FASB は、ASBJ や他の会計基準設定主体との既存の協力関係を維持し、強化することにより、お互いの考え方について相互に情報提供するような情報やアイデアの流れを促進し、収斂を促進させる環境に貢献すべきです。

このような協力及び連携は、グローバルな収斂を推進する一方で最高品質の基準を開発するプロセスを継続させることとなります。場合によっては、FASB（及び ASBJ）が自らの資本市場の投資家の最善の利益に資する（また、自らのビジネス慣行の重要性を認識する）ことのニーズが、完全に収斂した会計基準を作るという目標を上回る可能性があります。しかし、この道を進むことによって、FASB と ASBJ は両者とも、収斂した会計基準又は可能な限り差異の少ない会計基準に最終的に合意し、採用するという目標に向けて、IASB や他の人々と協力することができるようになるでしょう。

FASB は、ASBJ のほか、米国において証券を発行している米国外企業を多数有する国を代表する会計基準設定主体との関係の強化も図っていく予定です。そのような国のグループには、日本のほか、カナダ、中国、また、米国において証券を発行している米国外企業を相当数有する主要な欧州諸国が含まれる可能性があります。

こうした協力を通じて、FASB、ASBJ、経団連、金融庁、及び他の日本の指導者は、より共通で比較可能性の高いグローバルな財務会計の基準の追求において新たな道を見出すことができます。私たちは、次の方法を通じて、これを達成することができます。

- それぞれの自国基準を改善するために、個々に作業する。
- 個々のプロジェクトに関して協働し、会計基準設定における「ベスト・プラクティス」を識別する。
- IFRS の継続的な改善に関して IASB と協力する。

経団連と企業会計審議会の両者が正しく認識しているとおり、グローバルな収斂に尽力しつつも、それぞれの資本市場における利用者の差し迫ったニーズに対処しなければなりません。

このため、財務会計基準諮問会議（FASAC）は最近、FASB の考えられる新しいアジェンダ項目に関する情報を収集するためのアンケート調査を実施しました。コンバージェンス・プロジェクトの完了が近づいていることを踏まえ、このアンケート調査は、FASB が将来のプロジェクトを決定する際に価値あるフィードバックを FASB に提供することを目的としています。

アンケート調査は、プロジェクトの優先順位に関する意見を利害関係者に求めています。

す。その中には自由回答方式の質問も含めており、FASB が対処すべき最も重要な領域と回答者が考える領域に関して詳しく述べる機会を提供しています。

このアンケート調査の結果は、FASB が以下の項目を進めるべきかどうか、また、その場合にどのように進めるのかを決定するのに役立つこととなります。

1. 棚上げとなっているプロジェクト（財務諸表の表示、資本の特徴を有する金融商品、概念フレームワークなど）
2. 新聞記事や論評の焦点となっている論点（年金会計など）
3. 考えられるコンバージェンス項目（FASB が IFRS の特定の領域を米国基準に組み込むべきかどうかを含む）
4. FAF の導入後レビュー・プロジェクトの中で収集された情報から生じた現行基準に関する論点

いわゆる「コンバージェンス」プロジェクトを終わらせる中で、FASB がアジェンダに追加するプロジェクトを識別するプロセスに取り組むに当たり、日本を含めた他の国々の支援や助言を求めつもりです。

いまだかつてないほどに、米国基準の改善を提案する場合には、米国基準を使用している資本市場（これには日本も含まれます）において会計基準を設定する人々から情報提供を受けることが極めて重要であると考えています。

FASB は、今後、米国基準の開発において日本の利害関係者のコメントを積極的に求める予定です。そうした利害関係者には、経団連、ASBJ、企業会計審議会、金融庁、経済産業省などが含まれます。

この目標を達成するため、FASB は、FASB が設置する諮問グループの一部に日本の代表者にどのように入っていただくことができるかについて、日本の友人の方々とお話しさせていただくことを楽しみにしています。FASB は、このプロセスをどのように進めていくべきかについての皆様の考えを大いに歓迎します。

最後になりますが、FASB は、経団連と企業会計審議会が示した、継続的にグローバルな会計基準を収斂させるために私たちが一緒にやっていく方法に関する幅広いビジョンを共有しています。

FASB、ASBJ、IASB、及び他の主要市場の会計基準設定主体は、それぞれが担当する資本市場のために最高品質の会計基準を開発するプロセスを継続すべきです。また、これらの会計基準設定主体は、適切かつ実行可能な程度で、他の会計基準設定主体が自らの法域のために行う高品質の会計基準の開発にも参加すべきです。

これにより、グローバルな財務会計の基準の収斂の促進という目標に合致する、新しい、非集権的な多国間の国際的な会計基準設定のモデルができます。場合によっては、FASB、ASBJ、及び他の会計基準設定主体が、自らの資本市場の投資家の最善の利益に資することのニーズが、完全に収斂した会計基準を作るという目標を上回る可能性があります。

したがって、会計基準設定主体にとっての今後の最善の道は、できる限り差異の少ない会計基準に最終的に合意し、採用するという目標に向かって協力していくことです。私は、協力していくことを通じてその目標を達成できると確信しています。

お時間をいただき大変ありがとうございました。